

ファンロンパイ大統領(右)と歓談する尾崎さん—
ベルギー・ブリュッセルの欧州連合理事会本部



俳句を通して絆を実感

寄稿

大統領とランデブー

「四国夢中人」代表 尾崎美恵

2012年9月に実施した「欧州俳人による四国俳句めぐり」は100人近くの日仏ボランティア

スタッフによって支えられ、企画立案から1年以上の歳月をかけて実現にこぎつけた。この企画に参加した欧州俳人の一人ミン・ツリエット・ファーム氏は彼のブログの中で350冊に及ぶ写真と記事と俳句を掲載している。欧州俳人ブローガーをはじめボランティアの熱い思いがこの企画を実現させたと思う。

俳句に託す彼らの思いをさらに多くの人々に知ってもらうため、私は俳句愛好家として知られる欧州連合(EU)のファンロンパイ

大統領(首脳会議の常任議長)にラフレターを送った。そして今回、単身でヨーロッパに渡り、面会を果たす時がきた。1月下旬ブリュッセルの冷たい夜空。私は緊張して一睡もできなかった。

翌朝、欧州連合理事会本部でお会いしたファンロンパイ議長は長身で、鋭い洞察力を感じさせる政治家というより、哲学者のような方だった。力強い握手で迎えてくれた彼はとてもフランクに話しかけてくれ、緊張は次第に解けていった。

私は「四国俳句めぐり」の手製の句集をプレゼント。彼は自作の句集2冊を贈ってくれた。彼は東北の震災後につくった老犬と老人の俳句を熱心に説明し、昨年末の「日EU首脳協議」前に訪れた松山での思い出を懐かしそうに話し

てくれた。俳句を通して日本への強い思いを感じた。

大統領に就任以来、日本の外務省との共催で、日EU英語俳句コンテストが開催され、俳句が日本と欧州の「KIZUNA」になっている。

30分の面会時間の最後に、大統領はもう一冊持参した「四国俳句めぐり」に、安倍総理に宛ててサインをしてくれた。にっこり笑った温かい表情が印象に残る。

人は一人では何もできない。しかし、同じ思いの人々が集まるとそれが大きな渦となり、可能性は無限である。「四国の人々の熱い思いをどのような形にして海外に発信していくか」、心と心をつなぎ合わせながら皆さんと共に四国のクールを欧州に売り込んでいきたいと強く感じる瞬間だった。

文化